難波孤流敷翰男 [illegible]
[illegible]

へ13
2378
312

遠1特
2378
3/2

化九年
孟春

大吉利市

三馬門人學亭三子作

難風鮫男波流鞘

全三冊

春松軒梓

歌川國丸画

序

余が門人學亭三子眼小老莊列の書を湊むとして腹に老莊列の意味あるをかりへば三子は書にいとまなくとも学ばずとも手にわかくことを学べるといへん故に亭を学亭と号け名を三子と稱とされば道家の寓言を倣て這三冊の作物語を著はしいまだ微くして黄口の戯作者を笑方君子清覽臨サトシ而

式亭三馬記

鮫鞘伊兵衛

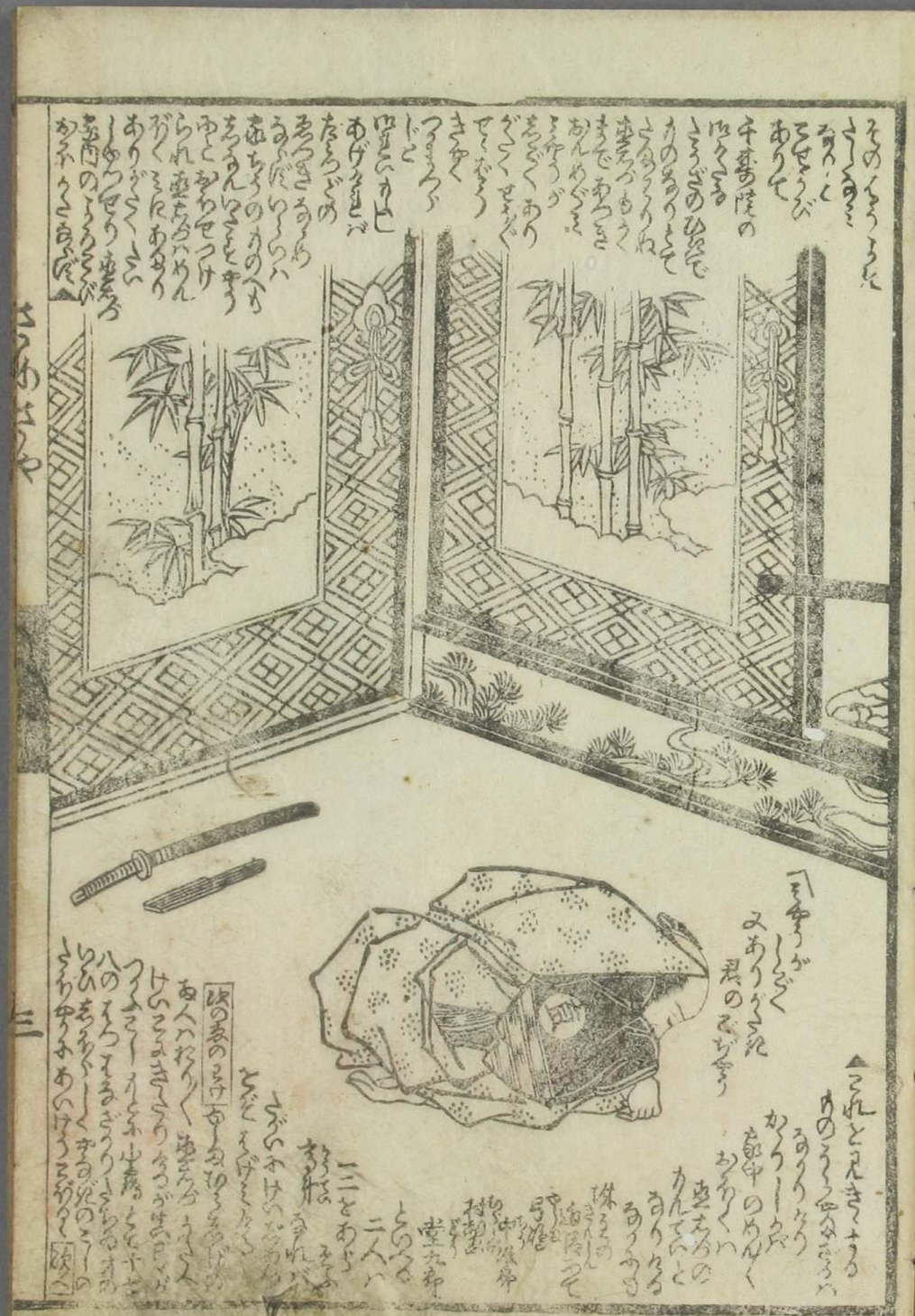
くのゐのうえをいつてうをよるゝ
宣伝まゝ
風俗を
あらく
世の習まを
まねて
意ゝ
山口巴屋
匠亭三七

村繁堂九郎

發端

頃城初花

今は昔近江の國志賀のかさゝぎとゝいふ所に一ある武士ありけり浪人して矢作兵右衛門と
いふものあり天文年中の古へ傳来しるしの弓神君をかくしたてまつりしとき
先祖より弓の古へ傳来しるしの弓神君をかくしたてまつりしとき
ゆゑ
ものとよび一子を惣次郎とて十七歳なるまでに小やこいるゝをれつゝけすく
よろづめかたくなるせるどけすかに一をきして二歳なるのさいわひをれば
もあさくびちやうあいしていつくしみうくまれて
あれどもその身多病にへ年四十にあまれども仕官のせどこもなく
惣次郎せんとくをふかくさせ世よいどさんとやくすをたのみ
らとしとる●愛に當國の一城主粟津左衛門の左夫晴景とゝいふものあり
けるかりうれども文武の及をそなへたるものゆゑれば上をまもるべく下ぐいかのぐうら



高野
ろぐーいふれーふ名刀を
マアそこそこそるーてくぐさんせ
「こりゃどもありひつろくさすのごとろくこ
とものこまくしてくぐさんれ
コレサく小ろるどの

さくらさくや

「ヤアぶてうらとんひけうるたつの

鐘

伊

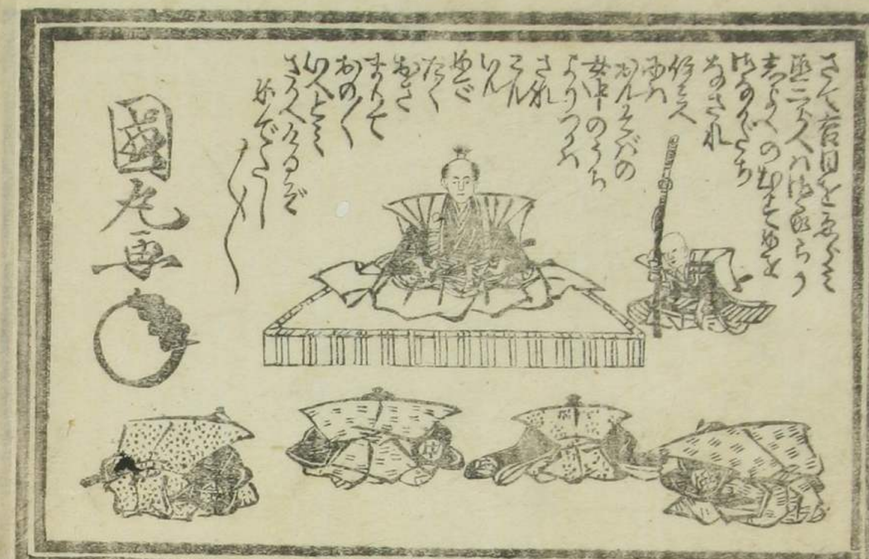
「さあ
さやが
てきのこと
ころ

天

「えどざんと」
「えろざんねんな」

「えろざんなあだうあさうれさあうぷれあそびろ」

文化九壬申新春發版



三馬門人學亭三子作

振向よく
寅ゝ
春の
花生
三馬

師の影を
仰ぎ
ひきたてらる
申の初春
三子

春松軒　西宮新六版

定

曾根文庫